

ペタンクの楽しさを広めたい 「川崎ペタンク・ボール」



ペタンクというスポーツ(ゲーム)を知っていますか。ペタンクは、1910年に南フランスで生まれた、ボールを投げ合い、目標物(ビュット)により近い者が勝ちというボウリングスポーツです。プロヴァンサルという助走をつけて投球するゲームが変化し、ピエタンク(両足を揃える)からペタンクになったと言われています。パラリンピック種目のボッチャ(パラペタンク)は、ペタンクからパラスポーツとして誕生しました。

川崎ペタンク・ボールの活動

川崎ペタンク・ボールは、主に川崎市を中心にペタンクやスポールボール(世界最古の球技)を楽しみながら、市内のイベントでペタンク体験会などの普及活動を行っています。1995(平成7)年5月27日に、川崎市レクリエーション連盟のインストラクター5名(30代中心)で川崎ペタンク協会を設立したのが始まりです。仲間の家族が脳卒中を患い、機能回復訓練のためにペタンクをやりたいといったことがきっかけだったそうです。基本的に毎月最終日曜日に練習し、現在の会員数は18名、国際大会に出場するメンバーもいるそうです。



▲ペタンク体験をする親子



▲世界選手権参加者の凛々しい姿

一見単純だけど、戦略性が高く奥深い競技

《基本動作》

ペタンクの投球はアンダースローで行い、バックスピンをかけるために手のひらを下にしてボール(フランス語ではボール)を離します。投球には、ポワンテ(目標に寄せる)とチール(目標を弾き飛ばす)があります。



▶右側：ビュット
(直径3センチの目標球)。
左側：ボール
(金属製中空、直径70.5~80mm、重量650~800g)



▲足をそろえて、手のひらを下にボールを握り、それっ!

《競技方法》

- ① ジャンケンなどで先攻チームを決めます。
- ② 先攻チームの選手が地面に直径35~50cmのサークル(円)を描き、サークル内から6m以上10m以下の距離にビュットを投げます。
- ③ 先攻チームの選手がビュットの近くに止まるように第1球を投げます。
- ④ 後攻チームの選手が第1球を投げます。
- ⑤ ここからはビュットから遠いチームが次の投球をします。味方のボールがビュットに一番近くなるまで投球を続けなければなりません。勝っているチームは休み、負けているチームが投球します。
- ⑥ 両チームが全てのボールを投げ終えたら1メヌ(1セット)終了。得点の数は、負けているチームのビュットに一番近いボールよりも近くにあるボールの数が得点となります。カーリン ▲距離は正確に計測グをイメージすると分かりやすいかもしれません。こうしてメヌを繰り返し、先に13点取ったチームの勝利です。



初心者から上級者まで一緒に楽しめます

「ビュットから1番目に近い相手チームのボールにぶつけて自チームのボールを1番目にするのができたときや、相手チームのボールに囲まれたビュットを弾き飛ばして位置を変えたときなど、たった1球で形勢を有利にできたり、大量得点が取れたりするから面白い」「フリーコートなので、どこでもできる」「ボールを投げる力があればよいから、子どもからお年寄りまで一緒にプレーできる」「初心者がベテランに勝つことがある」「戦略を考えながらプレーするのが楽しい」「声を掛け合いながらプレーするので、すぐに仲良くなれる」「いつの間にか歩いている。2試合終了時で3,500歩!」と、ペタンクの魅力を語る会員の皆さん。

フランスでは、酒屋の前の広場でパスティス(フランスのリキュール)を飲みながらペタンクを楽しむ光景が見られるほど、身近なスポーツなのだそうです。代表の藤田さんは、「地域の方が手軽に楽しめるような環境ができればと思います。ペタンクは、スポーツが苦手な方も、初心者から上級者まで一緒に楽しめますので、気軽に楽しんでもらいたいです」と話していました。百聞は一見に如かず、あなたも体験してみませんか。

※ 興味を持たれた方はこちらをご覧ください



世界ペタンク・ボール連合
World Petanque and Bowls Federation

国際ペタンク・プロヴァンサル連盟

F.I.P.J.P



<https://wpbf-fmbp.org>

<https://fipjp.org>

■川崎ペタンク・ボール 代表 藤田 雅久

電話 044-944-7850

メールアドレス mafujita@gray.plala.or.jp